

# 平成29年度の実践目標と市民の活動、関連施策・関連指標

## 1 自然やまちの美観を守り、緑豊かな美しいまちにしましょう

### (1) まちの美化

#### ア 京都市の取組

京都市では、「世界一美しいまち・京都」の実現を目指して、放置自転車対策や公園の美化、市民ぐるみの美化活動、「世界の京都・まち美化市民総行動」など、まちや公園の美化に積極的に取り組んでいます。

また、放置自転車対策については、京都市の自転車総合政策となる「京都・新自転車計画」に基づき、放置自転車問題の解決と適正な自転車利用を進める取組を展開しています。駐輪場の収容能力が需要を満たしていない地域などに、駐輪場整備を促すため、設置費用の助成を行うほか、放置自転車の撤去を毎日実施しています。平成29年度は、市内全域の撤去警告看板を交通標識に似た新たなデザインに変更したほか、市内の駐輪場情報やルール・マナーを掲載したウェブサイト「京都市サイクルサイト」を開設するなど、放置自転車の減少に向けた取組を実施しました。

路上喫煙については、「京都市路上喫煙等の禁止等に関する条例」を定め、市内全域で路上喫煙をしないよう努力義務を課すとともに、市内中心部、京都駅地域、清水・祇園地域を禁止区域（過料徴収区域）に指定し、違反者に対して過料を徴収しています。

公園の美化については、地域住民の自発的な意思により、公園の適正な維持管理を目的として結成された公園愛護協会などが、公園の清掃、除草活動、公園愛護思想の普及などに取り組んでいただいています。

#### イ 市民等の活動例

- ・ 中京区、東山区、下京区、南区、西京区内では、違法駐輪対策として関係機関や自治会等による啓発活動、駐輪指導などが、定期的に行われています。
- ・ 各区においては、門掃きや地域の一斉清掃が行われています。
- ・ 各公園では、公園愛護協会などによる清掃、除草活動が行われています。

#### ウ 関連データ

##### ○ 美化活動参加者数

平成26年度末	平成27年度末	平成28年度末	平成29年度12月末
約197,000人	約225,000人	約230,000人	約183,000人

##### ○ 不法投棄ごみ収集件数

平成26年度末	平成27年度末	平成28年度末	平成29年度12月末
1,886件	2,063件	2,068件	1,490件

○ 駅周辺の放置自転車数及び対象駅数（周辺に100台以上放置されている駅が対象）

平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
390台 3駅	370台 3駅	337台 3駅	252台 2駅

○ 公園愛護協力会結成団体数

平成26年度末	平成27年度末	平成28年度末	平成29年度12月末
649団体	662団体	670団体	674団体

(2) 緑化の推進

ア 京都市の取組

緑は、温室効果ガスの吸収やヒートアイランド対策など都市環境の維持保全をはじめ、山の斜面の表土流失や火災時の延焼防止といった防災対策、更には、景観の向上等多くの役割を果たしています。

京都市では、この大切な緑をつくり、守り、育てていくため、新しいニーズに即した本市の緑に関する総合的な計画として「京都市緑の基本計画」、それを具体的に推進するための「京のみどり推進プラン」を策定し、緑地の保全及び緑地の推進に関する取組を進めてきました。市民の皆様の緑に対する満足度を更に高められるよう平成29年8月に「市街地緑化の在り方」策定し、「どこを見ても庭園のように設えられている」緑の文化首都・京都をめざしています。

また、平成29年度は、企業、団体、個人に、主体的に街路樹の育成に関わっていただく「あなたもまちの樹ペアレント」制度を全国に先駆けて創設しました。

さらに、民有地において植栽等の緑化を実施する場合、その費用を支援する「京都市民有地緑化支援事業」をはじめ、地域住民等を街路樹サポーターに認定し、落ち葉清掃や除草など、街路樹及びその周辺部分の美化活動等を行っていただく「街路樹サポーター制度」や、企業等からの協賛金を募りサポーターが育成管理を行う「スポンサー花壇」の設置など、市民や企業が直接参加できる制度を設けています。

イ 市民等の活動例

- ・ 上京区では、植栽等を通じて文化生活向上の意義を高めるため、区民ボランティアと協働し、区役所庁舎前に季節の草花を植える活動に取り組まれています。
- ・ 山科区では、区民の手で自然豊かな潤いのあるまちづくりを進めるため、募金を呼びかけ、街路等への植栽を通じて「花の回廊」づくりに取り組まれています。
- ・ 南区では、市民の皆様の御協力をいただき、観光客の多い東寺周辺の大宮通、東寺道において、プランターボックスに花を植えて、花いっぱいの美しい町を目指す「花の町」運動を進められています。

## ウ 関連データ

### ○ 街路樹サポーター制度の実績

平成 26 年度末	平成 27 年度末	平成 28 年度末	平成 29 年 12 月末
80 団体	94 団体	112 団体	134 団体
1, 417 人	1, 577 人	2, 291 人	2, 378 人

## 2 「しまつのこころ」を大切に、環境にやさしい暮らしを実践しましょう

### (1) 地球温暖化対策

#### ア 京都市の取組

大量生産・大量消費の現代社会は、快適な暮らしや物的な豊かさと同時に、廃棄物の大量発生や、温室効果ガスの増加による地球温暖化、資源の枯渇など、地球環境の深刻な危機を招いています。

京都市では、環境にやさしいライフスタイルを目指し、毎月16日を、「DO YOU KYOTO?デー」（環境に良いことをする日）とし、マイカーから公共交通機関への転換を呼び掛ける「ノーマイカーデー」や屋外照明などの消灯を呼び掛ける「ライトダウン」などの啓発活動を実施しています。

また、平成29年度には、「京都議定書誕生20周年記念 地球環境京都会議2017 (KYOTO+20)」を開催。世界18箇国・地域から約1,000名の参加のもと、「パリ協定」が掲げる今世紀後半の「温室効果ガスの実質排出ゼロ」の実現に向け、温室効果ガスの大排出源である都市の責務を示した「持続可能な都市文明の構築を目指す京都宣言」を発表しました。

さらに、太陽光発電システムをはじめ、蓄電システム、太陽熱利用システム、エネファーム等の創エネ・省エネ設備の導入の利点をお知らせするイベントを、公共施設や大型ショッピングモール等で実施するなど、創エネ・省エネ設備の普及拡大を進めています。

#### イ 市民等の活動例

- ・ 市内の全学区では、地域ぐるみで主体的なエコ活動に取り組む「エコ学区」として、資源ごみの分別回収、環境学習会の開催や省エネ診断会など、様々な取組が実施されています。
- ・ 南区では、ヒートアイランド対策をはじめ、環境にやさしい活動を地域に呼びかけるため、夏の風物詩である「打ち水」キャンペーンを実施されています。
- ・ 西京区では、「DO YOU KYOTO?」を合言葉に、京都大学と連携して、子どもを対象にした環境教育を開催し、環境に対する興味・関心を高める取組が実施されています。

## ウ 関連データ

### ○ 温室効果ガス排出量

京都市地球温暖化対策計画では、温室効果ガスの排出量を、平成 32 年度までに平成 2 年度の 25%減である 5 8 7 万 t とする削減目標を掲げています。

平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
800 万 t	792 万 t	781 万 t	759 万 t

### ○ ライトダウン実施事業所の状況

平成 26 年度末	平成 27 年度末	平成 28 年度末	平成 29 年度末
119 箇所	122 箇所	122 箇所	123 箇所

### ○ ノーマイカーデー賛同団体状況

平成 26 年度末	平成 27 年度末	平成 28 年度末	平成 29 年度末
108 団体	112 団体	113 団体	114 団体

### ○ 「京（みやこ）エコドライバーズ」宣言者数（平成 20 年度からの累計）

平成 26 年度末	平成 27 年度末	平成 28 年度末	平成 29 年度末
136,547 人	151,495 人	167,874 人	186,239 人

### ○ 太陽光発電システム設置助成件数（平成 15 年度からの累計）

平成 26 年度末	平成 27 年度末	平成 28 年度末	平成 29 年度末
8,538 件	9,512 件	10,142 件	10,634 件

## (2) ごみ減量・循環型社会の実現

### ア 京都市の取組

京都市では、家庭ごみ有料指定袋制の導入や、プラスチック製容器包装の分別収集などの取組を実施するとともに、平成 27 年 10 月に施行した、ごみ半減をめざす「しまつのこころ条例」とこれを具体化した「新・京都市ごみ半減プラン」に基づき、ごみの減量（リデュース）と繰り返し使う（リユース）の「2R」徹底を図っています。

具体的な取組として、祇園祭などのイベントにおいて、屋台などで使用する紙食器類の代わりに、リユース食器を使用する取組やマイバッグ持参・レジ袋削減を推進する取組など、ごみの減量に向けた様々な取組を実施しています。

平成 29 年度は、事業者の協力のもと、一部の食品について販売期限を延長する社会実験等を実施し、食品の販売・購入段階における食品ロス削減に向けた課題と改善策につい

て検証を行いました。今後、更なる食品ロス削減の機運を醸成するための取組を進めます。

#### イ 市民等の活動例

- ・ レジ袋削減推進のため、平成30年1月末現在、市内33事業者、10市民団体が京都市と協定を締結し、マイバッグ持参とレジ袋の削減に取り組まれています。
- ・ 各区のふれあいまつりなどでは、会場内の飲食コーナーでリユース食器を使用し、ごみの減量、リサイクルを図るなど、環境に配慮したエコイベントを開催されています。
- ・ 食品ロスに向け、平成26年12月には「食べ残しゼロ推進店舗認定制度」を創設し、平成30年1月末現在で648店舗が認定されるなど、着実に取組が広がっています。
- ・ 京都市の市民力・地域力を活かし、地域における自主的な資源物の集団回収であるコミュニティ回収に取り組まれています。

#### ウ 関連データ

##### ○ ごみの市受入量

新・京都市ごみ半減プランでは、平成32年度に、39万tの目標値を掲げています。

平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
472,183 t	461,415 t	439,606 t	417,273 t

##### ○ 祇園祭前祭におけるリユース食器利用後のごみの量

平成26年度からは祇園祭前祭において「祇園祭ごみゼロ大作戦実行委員会」により、露店へのリユース食器の導入をはじめとした「祇園祭ごみゼロ大作戦」の取組が実施されています。

	27年度 (7/15・16)	28年度 (7/15・16)	29年度 (7/15・16)
来場者数	約33.5万人 ※	約55万人	約51万人
全体の廃棄物量	燃やすごみ 25トン 資源ごみ 3トン	燃やすごみ 47トン 資源ごみ 4トン	燃やすごみ 49トン 資源ごみ 3トン
エコステーション	50箇所	50箇所	52箇所
リユース食器導入数	16万5千個	21万6千個	19万9千個
ボランティア人数	延べ1,800人	延べ2,300人	延べ2,200人

※ 台風11号の影響により来場者減

### 3 地域でつながり、子どもをはぐくみ、安心・安全で健康に暮らせるまちをきずきましょう

#### (1) 地域の安心・安全

##### ア 京都市の取組

安心・安全にいきいきと暮らすことは市民共通の願いであり、災害や犯罪から市民生活を守ることは、大変重要なことです。

京都市では、市民との協働で安心安全な暮らしを確保するため、学区ごとの地域の総合的なネットワークである「学区の安心安全ネットワーク」への支援や、防犯カメラを設置する地域団体への補助を行っています。

また、京都府警察と協定を締結するなど、「世界一安心安全・おもてなしのまち京都」を目指し、市民ぐるみで取組を推進しています。平成28年度からは、全区において、それぞれの地域の特性、課題に応じた地域防犯活動や防犯環境整備などの取組を開始しています。

##### イ 市民等の活動例

- ・ 各区では、交通事故防止を目的として、児童や高齢者を対象とした交通安全を呼び掛けるイベントが開催されています。
- ・ 南区では、違法駐車のない安全で快適なまちづくりを目指すため、区民と関係行政機関が一体となって違法駐車及び放置自転車等に対する啓発活動を行っています。
- ・ 下京区では、毎月14日を下京区防犯の日に、スカイブルーを防犯カラーに指定して、京都タワーや区役所でライトアップや横断幕の掲出を行うことで、安心安全の機運を高める取組を行っています。

##### ウ 関連データ

###### ○ 防犯カメラの設置助成件数

平成26年度末	平成27年度末	平成28年度末	平成29年12月末
75団体216台	84団体224台	102団体228台	75団体216台

#### (2) 地域のつながり

##### ア 京都市の取組

京都市では、少子高齢化が進行する中、身近な地域の中で安心して子育てができるよう、保育所待機児童の解消に向けた施設の整備を進めています。平成29年4月には、国の新たな定義においても「待機児童ゼロ」となり、平成26年以降、4年連続で「待機児童ゼロ」を達成しました。

子育て家庭のニーズに応じた多様な保育サービスの充実に向け、時間外保育、一時預かり保育、病児・病後児保育の実施箇所の拡大を進めるとともに、平成29年度は、「子どもの居場所づくり」に取り組む民間団体に初期費用の一部を助成する「京都市子どもの居場

所づくり支援事業補助金」の創設や、児童館において大学生ボランティアスタッフによる学習支援事業を実施するなど、子どもたちの社会的な能力の取得や居場所づくりを進めています。

さらに、今後、認知症や一人暮らしなどにより、介護や支援を必要とする高齢者の大幅な増加が見込まれる中、地域での見守り・支援を推進し、孤立化や閉じこもりの防止、認知症の早期発見等が図れるよう、地域住民や団体が主体となって運営する高齢者の居場所づくり等に取り組んでいます。

本年1月には、身近な仲間と一緒にまち歩きを楽しみながら、京都の文化に触れることが出来る「健康長寿のまち・京都いきいきアプリ」の運用を開始し、市民の皆様が主体的に健康づくりに取り組める環境整備を行っています。

#### イ 市民等の活動例

- ・ 北区では、防犯、子どもの安心・安全などを守るため、北区民まちづくり提案支援事業を通じて、地域の活動を支援されています。
- ・ 左京区では、高齢者がいつまでも住み慣れた地域で生活し、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを進めるため、店主や従業員の方に認知症あんしんサポーターの講習を受けていただき、認知症高齢者などのお客様の立場に立った店づくりに取り組まれています。
- ・ 伏見区では、交通事故防止を目的に、幼児及び小学生を対象に、交通安全を呼びかけるイベントを実施されています。
- ・ 西京区では、住民、団体、事業者等と連携して、洛西ニュータウンの緑豊かな公園で子どもたちの想像力や生きる力を育むための冒険遊び場(プレイパーク)を開催しています。

#### ウ 関連データ

##### ○ 保育園（所）と定員数

平成 27 年 4 月	平成 28 年 4 月	平成 29 年 4 月	平成 30 年 4 月
260 箇所 26,035 人	267 箇所 27,420 人	269 箇所 28,140 人	280 箇所 29,726 人

##### ○ 高齢者の居場所設置箇所数

平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年 12 月
236 箇所	257 箇所	260 箇所	351 箇所

## 4 世界に誇る京都の文化や伝統を大切に守り伝えましょう

### ○ 文化・伝統の継承

#### (1) 京都市の取組

京都市では、14の世界遺産を有するとともに、全国の国宝の19.1%、重要文化財の14.3%を有する文化財の宝庫であり、文化財はもとより伝統的かつ創造的な文化を生み出してきたまちでもあります。

平成29年度は、西陣織産地が「西陣」と称されてから550年を迎えた節目を記念し、西陣織の美しさや匠の技を感じていただくため、歴史ある金襴作品や伝統的技術を用いた新しい作品等を展示する企画展を開催しました。また、「東アジア文化都市2017」の開催都市として、長沙市(中国)、大邱広域市(韓国)とともに、1年間を通じて多彩な文化交流事業を実施。都市間の相互理解の促進や京都の文化力のさらなる向上に繋げました。今後も交流事業を継続し、文化による幅広い交流の促進と連携の強化に取り組んでいきます。

京都には、高度な技術や優れた意匠を有する様々な伝統産業がありますが、生活様式の変化や海外製品の流入などによる需要の低迷、後継者不足等で、昨今は大変厳しい状況にあります。京都市では、伝統産業をはじめとする「京都ブランド」展開を目指す京都の中小企業に対し、海外の需要に合った新商品の企画開発や見本市への出展等の支援に取り組んでいます。京都伝統産業ふれあい館では、伝統産業の職人さん派遣事業により、職人さんの実演を通じて、国内外から京都を訪れる観光客に対して伝統産業の魅力を発信するとともに、伝統産業製品の販路拡大に向けた取組を進めています。

また、伝統産業に慣れ親しんでもらうため、春分の日を「伝統産業の日」と定め、毎年、伝統産業製品の製作実演や体験教室、きもの姿の方への市内文化施設への入場無料特典など、様々な催しを実施しています。

#### (2) 市民等の活動例

- ・ 上京区では、上京区に根付く能・狂言、箏演奏等を野外で鑑賞する上京薪能を開催するなど、区民が伝統芸能に親しむとともに、伝統文化の継承に寄与されています。
- ・ 左京区では、伝統文化の発信を目的として、学生や留学生に対して、いけ花等の伝統文化体験事業を実施されています。
- ・ 各区では、区民の芸能活動を通して地域文化の振興と育成を図ることを目的とした、各種催しを開催されています。

#### (3) 関連データ

##### ○ 国宝・重要文化財所在件数

平成28年度	平成29年度(平成30年3月31日現在)
国宝：211件(全国比約19.2%) 重文：1,873件(全国比約14.3%)	国宝：212件(全国比約19.1%) 重文：1,879件(全国比約14.3%)

○ 伝統産業ふれあい館来館者数

平成 26 年度末	平成 27 年度末	平成 28 年度末	平成 29 年度末
160,071 人	163,628 人	168,404 人	178,800 人

## 5 「世界中の人があこがれるまち」を目指し、京都が誇る「おもてなし」を実践しましょう

### (1) 京都市の取組

京都市は、平成20年に入浴観光客数5,000万人を達成し、平成28年の外国人宿泊観光客数が平成15年の45万人から318万人と7倍になりました。また、世界的にも権威がある旅行雑誌の一つ、トラベル・アンド・レジャー誌の人気都市ランキングをはじめ、海外の有力誌の人気都市ランキングで高い評価を受けるなど、世界から注目を浴びています。

京都市では、平成26年10月に策定した「京都観光振興計画2020」に基づき、プロモーションの推進や受入環境の整備など様々な取組を推進しています。

プロモーションの推進では、観光ウェブサイトの多言語対応（13箇国語）をはじめ、パリやニューヨークなど海外の都市に情報発信拠点を設置しています。

受入環境の整備では、国内外から多数訪れる観光客の方々が、施設情報、観光地への交通アクセスなどの情報を入手しやすい環境を整えるため、市内各所に無線LAN（ラン）スポットの整備を進めています。

また、観光地において無料で車いすを貸し出す「京都洛ラクあんしん車いすレンタル事業」の拠点を、嵐山、河原町三条の観光情報センター、岡崎、伏見の4か所に拡大し、誰もが京都観光を楽しめる環境整備を進めています。また、外国人観光客の皆様に、京都の奥深い魅力をしっかりとお伝えするため、専門的な研修を受けた100名を超える通訳ガイドが活動しています。

さらに、平成30年6月から住宅宿泊事業法の施行を受け、安全安心で地域と調和した京都らしいおもてなしの実現のため、有識者による検討会議やパブリックコメントを実施し、いただいた数多くの御意見を参考に「民泊」の適正な運営を確保するための条例を制定しました。

この条例とより細やかなルールを定めた規則及びガイドラインとを一体的に運用することで、市民の皆様と観光客の安全安心及び地域住民により培われてきた生活環境の確保に取り組んで進めてまいります。

### (2) 市民等の活動例

- ・ 東山区では、シニアクラブ会員が、「遠方から来られる方を一切道に迷わせない」をモットーに、春・秋の観光シーズンに区内4箇所において、ボランティアで観光ガイドを行われています。
- ・ 上京区では、京の七夕において、地域の方が中心となって作成した絵はがき短冊に、訪れた方に願いごとを飾っていただく取組をされています。
- ・ 西京区では、大原野地域の住民等で構成する協議会によって、大原野地域の魅力を発信するための様々なイベントが実施されています。

(3) 関連データ

○ 京都総合観光案内所利用者数（観光案内所調査）

平成 26 年度末	平成 27 年度末	平成 28 年度末	平成 29 年 12 月末
810,554 人	824,840 人	792,406 人	620,910 人

○ KYOTO Wi-Fi スポット数

平成 26 年度末	平成 27 年度末	平成 28 年度末	平成 29 年 12 月末
1,564 箇所	1,732 箇所	約 1,900 箇所	約 2,200 箇所